

森林環境保全基金運営委員による平成30年度森林環境税活用事業評価(令和元年7月30日実施)の集計及び総合評価

事業No.	資料ページ	1	公益林保全整備事業(木材増産推進課)	H30事業費	23,844 千円
H30-1	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	8	<p>【現状のまま継続】とした意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林整備を進めるために重要な事業であるので続けていきたい。アピールや要望の掘り起こしを行い、事業を進めてほしい。</li> <li>・最近、山に入る機会が多い中で10㎡/ha以上の搬出が必須での保育間伐が出来る山が所々に見られるので、森林組合等で調査をして頂き、人々が集まる場所やイベント等で、この事業を幅広くPRをして頂き、公益的機能の為に整備してもらいたい。</li> <li>・気候変動によって、これからは豪雨災害が頻繁に起こる可能性も感じるため、それを考慮した上での保全活動が必要になるように感じた。</li> <li>・森林整備の予算は残すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な森林整備を推進するため、当該事業の必要性を認めていただき、感謝する。</li> <li>・ご意見いただいた事業PR等につきましては、市町村広報誌や、林業関係団体が発行する機関誌などを通じて実施し、要望の掘り起こしに努めている。</li> <li>・今後は、新たな森林経営管理制度が動き出す中で、市町村が主体となって森林整備事業が進むことも想定されるため、これらの状況を踏まえながら、森林整備事業の進め方を検討していきたいと考えている。</li> </ul>	
	○ 事業を拡大	0			
	○ 事業を縮小	0			
	○ 休廃止を検討	0			
○ 改善のうえ継続	0				
事業No.	資料ページ	3	みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)	H30事業費	18,314 千円
H30-2	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	8	<p>【現状のまま継続】とした意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要望がある事業であるので、国の動きやその他の情勢の動きによって柔軟に対応することも必要である。</li> <li>・奥深い山で作業道等や簡易架線が難しい地域での徐間伐が出来てない山が多く見られるので、森林組合を通じて地区での説明会やパンフレット等の配布する事により、多くの森林所有者に理解が行き届くようにPRをしてもらいたい。</li> <li>・森林整備の予算は残すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の必要性を認めていただき、感謝する。</li> <li>・ご意見いただいた事業PR等については、市町村広報誌や、林業関係団体が発行する機関誌などを通じて実施し、要望の掘り起こしに努めている。</li> </ul>	
	○ 事業を拡大	0			
	○ 事業を縮小	0			
	○ 休廃止を検討	0			
○ 改善のうえ継続	0				
事業No.	資料ページ	5	森林・山村多面的機能発揮対策支援事業費補助金(林業環境政策課)	H30事業費	14,077 千円
H30-3	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	8	<p>【現状のまま継続】とした意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標面積をほぼ達している事業で、継続すべき。</li> <li>・里山の保全、森林資源利用など多方面に使える補助金なので多くの活動される県民に対して事例集などを含めて広報媒体等で幅広く発信をしてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国や地域協議会で示している情報について、県のHPIにリンクを貼るなど、広報活動に努めていきたいと考えている。</li> </ul>	
	○ 事業を拡大	0			
	○ 事業を縮小	0			
	○ 休廃止を検討	0			
○ 改善のうえ継続	0				

事業No.	資料ページ	7	シカ捕獲推進事業費補助金(鳥獣対策課)	H30事業費	22,594 千円
H30-4 -1	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	6	【現状のまま継続】とした意見 ・30年度からは市町村が一括購入で期待をしていたが、議会对応や価格の件で配布の遅れや罠の減少等で半数以上が猟期に間に合わない状態が捕獲目標に届かなかった大きな要因になっている事を鑑み、今後は猟期から逆算をして、計画を立てて頂かないと時期を逃してしまい、意味のない事業になると思います。現地視察では狩猟者の人と懇談ができ、その中で罠が寒さの中で凍り、機能しなくなる事が度々あるとの事でした。市町村の担当者や狩猟者の方々とも密に話し合いの機会をもって頂き、効率の上がる事業として頂きたい。	・令和元年度は、19市町村からの要望があり、そのうち13市町村は11月末までに交付決定が完了し、残りの市町村についても概ね12月～1月に交付決定及びわなの配布が完了する見込みである。以上のことから、30年度の平均利用日数(配布完了日～3月末)は69日であったが、令和元年度は前年に比べて増加する見込みである。	
	● 事業を拡大	1	・H29年度から、大幅に予算が増額になっているが、費用対効果からすると今年度の捕獲数を勘案して令和2年度の予算を検討する必要がある。 ・シカ対策は重要で続けていただきたいが、ワナ配布数と捕獲数の割合が適正かどうかをベテラン猟師の方とか、専門家に判断してもらう必要あり。	・1人15基かつ合計15万円までの規制はあるが、わなの配布数は各市町村(被害対策協議会、地区猟友会等の意見を踏まえて)の決定に委ねており、当該地域で使い勝手の良いわなを選定していただいてもとの承知している。	
	○ 事業を縮小	0	【事業を拡大】とした意見 ・わなによるシカの捕獲は一定の効果があると認められる。シカの生息密度を低下させることは急務であると考え。わなのコストなど、利用者の要望も加味して、必要があれば拡大してもよいのではないか。	・県要綱では、「1基でも配布を受けた者は、次年度に再び配布を受けることができない」規定になっているため、令和元年度の配布対象者が30年度に比べて減少せざるを得ない市町村や、30年度にほぼ全員に配布したため元年度の配布ができない市町村も存在する。事業の実施年度は「平成29～令和元年度」の3ヶ年であるため、一先ずは事業を終了し、配布したわなが一定量消耗したのち、再び同事業に一定の改良を加えたいという再開を森林環境保全基金運営委員会にお願いしたい。	
	○ 休廃止を検討	0	【改善のうえ継続】とした意見 ・効果が上がって来ると思われるが、捕獲毎にワナの損傷があり場合によっては使用不能になる場合がある。今後は、ワナの各部の部品の配布を行い効率のよい利用を検討してはどうか。	・県単事業「野生鳥獣に強い県づくり事業の中のメニュー(捕獲推進事業)」でくりわなの部品(ワイヤロープ、スプリング)の補助を市町村を通じて行っており、そちらの事業の活用を進めている。	
	● 改善のうえ継続	1			
事業No.	資料ページ	9	シカ捕獲事業委託料(鳥獣対策課)	H30事業費	2,058 千円
H30-4 -2	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	7	【現状のまま継続】とした意見 ・くりわなへの移行は妥当と考える。	・「有識者、環境省、国有林、関係市町村、鳥獣保護管理員 など」で構成された事業検討会を年度末(3月下旬)に開催し、事業結果に対する評価や次年度以降に向けてのアドバイス等について意見を頂戴し、次年度事業に反映するよう努めている。 令和元年度では、くりわなの設置場所選定の参考資料として、鳥獣保護区内21地点での自動撮影カメラによるシカの出現状況を定期的に受託者側に提供している。	
	○ 事業を拡大	0	・危険が伴う事業でなかなか大変だと思いますが、鹿害を少なくする為にも、色んなデーターや罠に関しても箱わなが効率が悪くて、今後はくりわなに移行する等のデーターの上での敏速な対応を取ることで、成果が上がってくるのではないかと思います。今後は検討会や反省会等で実績の上がる対応をお願いしたい。	・「交付金事業計画承認申請」を4月上旬に環境省に提出したとしても、環境省からの「交付金事業計画承認」が6月上旬ごろであるため、交付金交付申請はそれ以降の提出となり、捕獲事業に必要な「事業実施計画」の策定が8月中旬、プロポーザル公告が8月下旬、プロポーザル審査委員会が9月下旬、委託契約が10月上旬、捕獲開始が10月下旬～11月上旬となる。 「交付金交付決定前事業着手届」の活用等により、「事業実施計画」の策定を早期に行うなど、捕獲事業の早期着手に向け検討したい。	
	○ 事業を縮小	0	【改善のうえ継続】とした意見 ・一般狩猟者が立ち入らない地域での捕獲に対しては効果があると思うが、捕獲時期等事業着手が遅いのではないか。適正な時期に実施を検討してはどうか。		
	○ 休廃止を検討	0			
	● 改善のうえ継続	1			

事業No.	資料ページ	11	希少野生植物食害対策事業(環境共生課)	H30事業費	8,827 千円
H30-5	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	6	【現状のまま継続】とした意見 ・成果の上がっている事業であり、継続することが効果的である。	<p>・引き続き、食害の状況について調査を進め、被害の拡大が危惧される場所において早急に対策を進める。また、今後被害の拡大が懸念される地域においては、市町村や関連機関、鳥獣対策課等と情報を共有し対策を実施する体制づくりを行う。</p> <p>・これまで防護柵を設置した箇所については全箇所モニタリング業務の中で確認の上、簡易な補修を行っているが、今後老朽化によりさらに部材の交換が必要になる可能性があるため、翌年度の業務の中で対応したい。</p>	
	● 事業を拡大	2	【事業を拡大】とした意見 ・希少野生植物の種を守るためには早急に対策を講じ、短期間での食害対策を実施する必要がある。又、実施地周辺でのシカの捕獲対策をやらなくては防護柵だけでは効率が悪いのではないか。 ・希少植物の被害が県下に広がっているため、牧野植物園や市町村等とも綿密に連絡を取り合い、多くの希少野生植物を守ってもらいたい。設置された防護柵は巡回をして頂き、常に万全の状態を保ってもらいたい。今後は老朽化した保護柵のメンテナンスの為に費用や異常気象等での緊急対応が発生すると思われるので、事業拡大とした。		
	○ 事業を縮小	0			
	○ 休廃止を検討	0			
○ 改善のうえ継続	0				
事業No.	資料ページ	13	環境学習推進事業(生涯学習課)	H30事業費	1,648 千円
H30-6	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	6	【現状のまま継続】とした意見 ・アウトプットのアピールは大切であるので、(昨年度同様)テレビ、新聞で取り上げてもらって、事業とともにアピールしていきたい。 ・森林率日本一の県として、全国の見本になる様な取り組みをして頂きたいです。多くの方に参加してもらいたいため、情報提供や周知活動の遅れが無いように万全の体制を取ってもらいたい。	<p>・「子ども地域学習推進事業」では、委託先が管理運営するホームページやSNSにより、活動内容を発信している。令和元年11月17日に高知県立森林研修センター情報交流館で行われたキッズフェスにおいて、来場者に対して事業に参加している児童自らが活動について発表を行った。本年度も取組の様子を紹介してもらえるように新聞社に投げかけている。</p> <p>・自然体験型学習事業については、学校だけでなく、民間団体・市町村・NPO・青少年教育団体・児童福祉施設等を対象とした事業に拡大する方向で考えている。山や木をはじめとした自然体験活動の機会を県内の多くの児童生徒に提供することで、環境について自発的に考えることのできる力を育成していく。同時にH30年度までに養成してきた自然体験活動を企画できる指導者の派遣を行うことで指導者の経験値を高め、より質の高い学習を提供していく。 民間団体が実施の事業については、安全確保や質の高い体験活動を行うためにも、外部からの講師招聘を推進し、指導者同士の交流を促すとともに、指導方法についても研鑽を深められる機会を創出していく。</p>	
	● 事業を拡大	1	・ただ学習を進めるだけでなく、高知の環境のビジョン(理想とする姿)を共有した上で学習を進めるとより効果があると感じた。		
	○ 事業を縮小	0	【事業を拡大】とした意見 ・第一に、環境学習の質の高さを保証する、指導者の専門性の向上を図る仕組みづくりが必要であると考えます。ここでいう専門性とは、学習対象者のニーズに応じた内容の構成力、発達に応じた内容を組める企画力、および具体的実践における計画力と、臨機応変に対象者の実態に応じて計画、内容をアレンジできる実践力を指します。指導者のPDCAを、いかに外に開く形で支えていけるかが大切だと考えます。また、専門性を求めるだけの報酬の問題も大きく関わると考えます。第二に、指導者「派遣」事業と共に、フィールドを持ち、そのフィールドと深く関わって環境学習できる場と指導者が求められます。山梨県のキープ自然学校や栃木県のハローウッズなど、質の高い環境学習は、概ねその豊かなフィールドに深く関わって行われており、指導者はそのフィールドを通して高い専門性を持っています。総じて、環境学習における質の高い専門性を持った指導者の育成が求められると考えます。		
	○ 休廃止を検討	0			
○ 改善のうえ継続	0				

事業No.	資料ページ	15	高校生森林環境理解事業(高等学校課)	H30事業費	617千円
H30-7	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	5	【現状のまま継続】とした意見 ・長く続いている事業で、効果的な使い方も確立されていると思う。	・実施校の拡大については授業等との調整も含め、引き続き導入校の拡大に努める。	
	● 事業を拡大	1	・実施校が定着して、地域に密着した活動等は大変良い事であるが、主として西部方面に偏っているため、県内でバランスの取れた状態になる様に、学校関係に働きかけて頂きたい。事業内容等は多くの高等学校に知って頂き、喚起できる材料になればと思います。	・現在の取組におきましては高等学校における取組であるため、対象は高校生となっている。	
	○ 事業を縮小	0	【事業を拡大】とした意見 ・実施校の拡大を図るべき。	・高等学校における事業ではあるが、木工教室や積み木を製作し地域の幼児等へプレゼントする取組などを行っているほか、他課の事業であるが、教育委員会においても高校生以外を対象とする事業にも取り組んでいるところ。引き続き、他課との連携をしながら、事業の実施をしていきたいと考えている。	
	○ 休廃止を検討	0	【改善のうえ継続】とした意見 ・森林環境理解について、高校生からでは実感を伴った理解の幅に限界があると考えます。高校生による中学生への出前授業など、大変おもしろい企画かと思いますが、中学生というまだ柔らかく、多感な時期にこそ、獲得できるものがあると考えます。(もっと言えば、小学生、幼児にまでさかのぼります。)中学から高校へのカリキュラムの連続性を図る実験校を選定し、体験が生む実感から知的学習が繋がっていくよう、広く長い視野でこの問題に取り組むことが重要であると考えます。そして、中学での実績を元に、この問題を小学校へとつなぎ、幼児にまで視野が広がったとき、森林環境理解に関する学習として確かな道筋が開かれるものと思います。その点において、特に林業や木材製造業などが盛んな地域など、地域性を行かした開かれた学習を視野に入れることが大切だと思えます。		
	● 改善のうえ継続	1			
事業No.	資料ページ	17	高校生後継者育成事業(高等学校課)	H30事業費	335千円
H30-8	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	4	【現状のまま継続】とした意見 ・若い担い手の育成に直結する事業である。部活などによる日程調整の問題は、高校側とよく協議して受講者の確保に努めたい。	・生徒のキャリアアップにもつながる取組でありますので、農業高校や中山間地域の学校など、引き続き、広く募集していきよう努めていきたい。	
	● 事業を拡大	3	・多くの若者が求められている林業関係において、実践力になるこの事業は実施校がほぼ定着し、多くの学生が参加して資格を得ていますが、今回は資格取得者が少なくなったとの事で、理由が部活動をしているものは全時間講習会に出席しないと資格がとれない為に講習会に参加する方が減ったとの事で、追加講習などでも資格が得られる方策も必要ではないかと思えます。	・現在は資格取得に向けた取組を行っており、高校生の就職にもつながる非常に重要な事業と考えている。	
	○ 事業を縮小	0	【事業を拡大】とした意見 ・将来林業を担う後継者育成に有効な事業なので、今後は山間地の高校等へ広く募集を行い事業を拡大すべきだと思う。	・高校生以外を対象とする事業につきましては、他課や地域と連携しながら、改善・拡大した事業のあり方について検討していきたいと考えている。	
	○ 休廃止を検討	0	・林業従事者の育成を図るため必要不可欠なもの。  ・未来を担う人材の育成は重要。		
	● 改善のうえ継続	1	【改善のうえ継続】とした意見 ・後継者育成について大切であるのは、技能の習得と共に、その職業につこうとする意欲であり、その意欲は、「憧れ」から形成されるものと考えます。小学校の卒業式で未来の希望を語る時、第一次産業を出す生徒は、ほぼ全くいません。「憧れ」は、専門家としての職業人に直接関わったり、観たりできる機会を通して育まれるものであり、実際に林業は、職業的価値および技能の専門性等を鑑みて、子どもの憧れを生む魅力を持った職業であると思えます。職業に対する誇りや魅力を感じる機会を、どの時期に、どのような内容で児童、生徒に伝えていくのかが、後継者育成の大切な鍵を握っているものと考えます。その意味で、高校生だけではなく、広く長い視野で、この問題を捉えていく必要があると思えます。また、技能の習得という点においても、手先の器用さや目の働きなど、身体の発達がほぼ横ばいになる時期よりもっと早くに、専門的な学習をつなげていく方が、現実的であると考えます。		

事業No.	資料ページ	19	山の学習支援事業費補助金(林業環境政策課)	H30事業費	13,664 千円
	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等		事業担当課の対応・検討状況
H30-9	● 現状のまま継続	6	【現状のまま継続】とした意見 ・事業の目的を学校側に浸透させ、時間を確保できるように働きかける。	<p>・各学校とも継続に向けた意欲は示してくれているところであり、要望のあった学校については、おおむね要望どおり取組が行われている。</p> <p>・事業を行う学校数の拡大については、要望のない学校に向けて事業を実施する上での課題や、どのようなプログラムがあれば利用できるかについてアンケートを行ったり、ブロック毎の小中学校の校長会により、全校に呼びかけを行うなど、事業の利用について積極的にPRを行った。</p>	
	○ 事業を拡大	0	・取り組みをしている学校は今年は減ったが、全市町村の小中学校で森林環境学習や木工教室の実施で成果を上げているので、今後は多くの学校に「木の文化」が身につく様に指導を促してもらいたい。		
	● 事業を縮小	1	・子ども達の学びを行動に繋げていくためには、アーティストのような感覚的な人の力を借りることも1つだと感じた(子ども達のワクワクを引き出したり、危機感をもってもらったり) ・H30年からR1年にかけて大幅に予算が増額になっているが、R1年の個人、団体での出前授業の実績を勘案してR2年度の予算を考慮する必要有。		
	○ 休廃止を検討	0	・学校側の計画が主であるので難しいと思いますが、実際に林業を営む方やそれに関連する職業の方々との連携が、結ばれるとよいと思います。		
	○ 改善のうえ継続	0	【事業を縮小】とした意見 ・文科省の予算でやるべきではないか。		
事業No.	資料ページ	21	森林環境情報誌作成等実施委託料(林業環境政策課)	H30事業費	4,264 千円
	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等		事業担当課の対応・検討状況
H30-10	● 現状のまま継続	7	【現状のまま継続】とした意見 ・成果は上がっている。魅力ある紙面づくりを続けてほしい。QRコードの活用はよい。	<p>・情報誌の継続的な発行により、特に小学生及びその親世代への認知度は非常に高くなっており、浸透はしてきているものと考えている。</p> <p>・動画の再生状況やtwitterのフォロー数は増加しつつあるものの大きく伸びる状況には至っていないなど、関心を持たない層へのアプローチ方法については引き続き課題となっている。</p> <p>・そのため、事業実施の基本的な方向性は堅持しつつ、若い世代へのアプローチとして、保育園、幼稚園への配布を検討しているが、それに加えて、親子連れの参加するイベントなどを中心として行っている取材方法についても、工夫できないか委託業者とも協議していきたいと考えている。</p>	
	○ 事業を拡大	0	・県内の全小中学校の各家庭や各市町村、道の駅など配布を中心として森や山の事をわかりやすくイラストや写真を取り入れたの広報誌は山や森、木や林業の事を理解するには必須のアイテムだと思います。特に子育ての若い女性に森の大切さを理解して頂く為にも継続が必要だと思います。		
	○ 事業を縮小	0	・若い層に広げていくと考えると、インスタ女子を巻き込むなど、若い層の価値観を取り入れるのがいいかもしれない。		
	○ 休廃止を検討	0	【改善のうえ継続】とした意見 ・広報が大事なものは理解しているつもりだが、数年前私の子が学校でもらって来ていましたが、あまり読まないし、短期間でゴミ箱いきだったと思います。		
	● 改善のうえ継続	1			
事業No.	資料ページ	23	森林環境学習フェア開催委託料(林業環境政策課)	H30事業費	8,917 千円
	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等		事業担当課の対応・検討状況
H30-11	● 現状のまま継続	7	【現状のまま継続】とした意見 ・これまで周知しきれなかった県民層へ一気に認知度を高め、森林環境保全および環境税の理解を進める目的をどのくらい達することができたのか評価方法を設定する必要がある。評価によってはその先の事業の在り方を柔軟に深く対応する必要があると思う。	<p>・R1年度の来場者数は昨年度より増加しており、定着に向けた兆しが感じられる状況となってきており、また、森林環境学習ブースをスタンプラリーに組み込んだことにより、楽しみながら森林のことや林業への一定の啓発を行うことができたと考えている。</p> <p>・スタンプを押す際には、他で実施しているイベントなどについて案内するなど継続的な行動につながるよう次の機会の情報提供を意識した。</p> <p>・単に来場者数だけでなく、課題への理解度や次の行動にどのようにつながっていくのかなど新たな事業効果をどのように設定するのか検討していきたいと考えている。</p>	
	○ 事業を拡大	0			
	○ 事業を縮小	0	・森林環境学習フェアは楽しく遊びながら、森林の事や環境の問題が理解できるフェアにならなくてははいけないと思います。多くの県民が集う定着したイベントになればと思います。その為には斬新な企画、立案が大事だと思います。		
	○ 休廃止を検討	0	・林業全般的に現場作業員が不足しており、環境学習(ソフト)と同等に林業(ハード)への理解と就業へもPRしてほしい。		
	● 改善のうえ継続	1	【改善のうえ継続】とした意見 ・啓発イベントは人を集めることが目的になりがちで、来場者の満足度と事業の成果がイコールだとは感じにくい。継続していくのであれば、来場者が次の行動を起こせる内容であってほしい。		

事業No.	資料ページ	25	こうち山の日県民参加支援事業委託料(林業環境政策課)	H30事業費	3,041 千円
H30-12	集計数		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	6	【現状のまま継続】とした意見 ・ボランティアの裾野を広げる工夫をしてほしい。	<p>・森・ヒト・こうち応援ネットは更新の少なさが課題となっているため、森林環境税を利用した補助事業を活用するボランティア団体に情報掲載を義務づけるなどにより、多くのイベント・活動情報が掲載されている状態にしたいと考えている。</p> <p>・そのうえで、広報誌やイベントなど機会を捉えてホームページについて周知を図っていきたいと考えている。</p>	
	○ 事業を拡大	0	・「森・ヒト・こうち」応援ネットのホームページが周知されていないので、あらゆる所でPRして参加者を増やしてほしい。 ・「森・ヒト・こうち」応援ネットのホームページはイベント検索機能がついたので、利便性が上がっているとおもいます。今後は新しい情報や企画が随時掲載され、多くの県民の参加に寄与してほしい。		
	● 事業を縮小	1	【事業を縮小】とした意見 ・事業内容的にボランティアということで、学習内容が薄く感じられる。参加人数も減っている。拡大する意味が本当にあるか疑問である。		
	○ 休廃止を検討	0	【改善のうえ継続】とした意見 ・年々参加者が減少しており、改善が必要。		
● 改善のうえ継続	1				
事業No.	資料ページ	27	こうち山の日推進事業費補助金(林業環境政策課)	H30事業費	10,567 千円
H30-13	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	7	【現状のまま継続】とした意見 ・概ね成果が上がっている。	<p>・本年9月末に発刊した森林環境情報誌の中において、こうち山の日推進事業を活用したイベントの予定を掲載し、また、事業実施者においても活動前の広報においてチラシやHPなどでPR活動を行っていただいている。</p>	
	○ 事業を拡大	0	・「こうち山の日」や山の一日先生支援事業においては多くの方の参加を頂き、事業も順調ですが、この事業等を知らない人も多々いるので、今後においては情報誌やチラシなどを使って満遍なくPR活動をして頂きたいです。		
	○ 事業を縮小	0			
	○ 休廃止を検討	0			
○ 改善のうえ継続	0				
事業No.	資料ページ	29	運営委員会等開催事務費(林業環境政策課)	H30事業費	544 千円
H30-14	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	7	【現状のまま継続】とした意見 ・委員の貴重な時間をいただくのだから、効果があがるように日程調整や準備をお願いしたい。視察については、準備も非常に大変であるが、見たら見ただけの理解が深まるのでぜひ実施してほしい。年度末にあわててやると人が集まらないので、日程には工夫が必要である(以前は夏前、梅雨や虫の発生を避けて実施していたこともあるので参考に)。	<p>・会議の開催時間については、昨年度から開催時間を長くして実施しているものの、事業が多いことから十分な説明ができていない部分がある。</p> <p>・時期的、時間的な制約はあるものの、いただいた意見をもとに実施方法や準備方法について引き続き改善に努めたいと考えている。</p>	
	○ 事業を拡大	0			
	○ 事業を縮小	0	・30年度は現地視察を行って、森林整備等の現場状態や鹿の餌の取り組みについては狩猟者との直接の話し合いが出来た事は非常に有意義であったと思います。又運営委員のメンバー同士が会議以外での交流が移動中や現地で出来た事が良かったと思います。		
	○ 休廃止を検討	0	【改善のうえ継続】とした意見 ・短時間にすべての事業の説明を受け、資料を読むだけでは事業の理解が充分できていない自信がない。各委員の専門が多岐に分かれていますので、各委員がアンケートを別々に書くのではなく、議論した方が良く存じます。		
● 改善のうえ継続	1				

事業No.	資料ページ	31	林業大学(短期課程)研修業務等委託料(森づくり推進課)	H30事業費	491千円
H30-15	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	7	【現状のまま継続】とした意見 ・中級以上の受講者を掘り起こす工夫が必要である。	・ボランティア活動参加者や過去に初級を受講している中級未受講者に対して、中級以上の受講を促すような働きかけを検討したい。	
	● 事業を拡大	1	・林業に関心を持ち、ボランティア活動をする人が多くなっている中での作業安全研修は必修であると思います。多くの方に受講を促す為にも市町村等を通じてのPR活動やパンフレットの配布を通じて、多くの方に参加して頂きたく思います。鳥獣被害対策の講習に参加がなかった事は作業安全研修と抱き合わせをした様な仕組みを取ってみるとかの工夫が必要でないかと思えます。	・周知方法に関しては、ホームページへ上での募集に加え、市町村への研修案内パンフレットの配布を行っている。H30に参加者のなかった鳥獣被害対策講習については、募集時期を早める他、新規の取り組みであることをよりPRする工夫を行い、参加者の確保に努める。	
	○ 事業を縮小	0	【事業を拡大】とした意見 ・森林保全に必要なボランティア活動につなげる講習内容の増を図り、事業の拡大をすべきではないか。	・参加者に対して要望を取り、ニーズに合わせて講習内容の増を検討したい。	
	○ 休廃止を検討	0			
	○ 改善のうえ継続	0			
事業No.	資料ページ	33	木の香るまちづくり推進事業費補助金(木材産業振興課)	H30事業費	34,277千円
H30-16	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	7	【現状のまま継続】とした意見 ・だいぶ定着した事業である。評価の方法が、木質化施設や木材製品に関係した県民の数で行われているが、そろそろ別の指標を考えてもよいように思う。例えば、使用された木材量、木質化についての印象(大規模アンケートであれば5年に一度になるがもりりんなどを活用しても)などを評価してもよいのかなと思う。	・木質化施設や木製品を利用する人数に加えて、これまでに事業を活用した団体等に木材利用について意見を聞き取る機会も設けたいと考えている。	
	● 事業を拡大	1	・木材製品の実際の売り上げが伸びているかなど、データをもとに今後の展開を検討してほしい。	・森林環境情報誌(もりりん)等に事業の紹介やこれまでの実績を掲載することを検討する。	
	○ 事業を縮小	0	【事業を拡大】とした意見 ・毎年、成果をあげていると事業だと思えます。今後においては多くの人の集まる施設等に目を向けて木の香る事業の実績のパンフレットや木の持つ特性などのパンフレット等を作り、皆さんに理解拡大を行ってほしいです。		
	○ 休廃止を検討	0			
	○ 改善のうえ継続	0			
事業No.	資料ページ	35	木育推進事業費補助金(木材産業振興課)	H30事業費	515千円
H30-17	委員による評価		見直しの具体的方策に関する意見等	事業担当課の対応・検討状況	
	● 現状のまま継続	4	【現状のまま継続】とした意見 ・市町村の乳幼児に木に親しむ事業としての木育は乳幼児に玩具等を贈る事業に対する補助をする事業で森林率日本一の県として木の文化に理解を深める為に良い事業だと思えますが、実績が3町と低い状態で、PRも必要であり、乳幼児を持つお母さん方からも声をあげて頂き、木の玩具や食器等が欲しいとの意向を市町村に要望して頂く事も必要ではないかと思えます。木育の事業全体がまだまだ周知されていないのではないかと思います。	・当事業に関心を示した市町村へは、直接訪問し事業説明を実施するとともに、要望調査時に個別に電話連絡し説明を行うなどの取り組みを実施。	
	○ 事業を拡大	0	【事業を縮小】とした意見 ・広がりが無いのでは。	・市町村担当者の木育や本事業についての理解は、徐々にではあるが進んでおり、令和2年度については、6市町村から事業要望が上がっている。	
	● 事業を縮小	1	【改善のうえ継続】とした意見 ・基本的な考え方は良いのであるが、自治体に使いやすい方法を相談したらよいと思う。	・また、本事業ではなく、国の森林環境譲与税を活用し玩具等の配布を検討している市町村も見られるなど木育への理解の広がりも見られる。	
	○ 休廃止を検討	0	・市町村によって温度差がありすぎると感じるため、地域のファミリーサポートセンターなど、他の子育て関連事業と連携させるなどして、少しでも取り組みやすい状況を整えてほしい。	・令和2年度からは、多くの市町村、民間事業者が利用している「木の香るまちづくり推進事業」との統合を検討しており、市町村以外の事業主体にも木育の事業を県が実施していることの周知をはかっていく。	
	● 改善のうえ継続	3	・幼児向け木材製品の製造を請け負う事業者の拡大と製造のコスト削減。	・さらに、関連するイベント等において、木育のPRを行うことも検討していく。	
				・これらの取り組みにより、木育に関する取り組みの周知を図るとともに、木育への理解の醸成を促進する。	